２０１８年２月第１１２号　米良電機産業株式会社　都光電機産業株式会社　さくら電機産業株式会社　株式会社くまもと電設資材　株式会社共立電機製作所　株式会社共立電照

米良新聞
112

電力は売るから貯める時代へ

平成３０年度蓄電池の導入に伴う補助金が始まります。１２月号で特集を組み皆様へ情報をいち早くお届けしました。２月号では蓄電池市場がなぜ拡大するのかを追求して参ります。それに伴ってパナソニックの蓄電池販売のキャンペーンについてお知らせいたします。

蓄電池は高額投資で採算が合いますか？

蓄電池導入拡大の要因は住宅太陽光設備の２０１９年問題にあります。２００９年１１月からはじまったＲＰＳ法やＦＩＴ法で当初売電４８円／ｋｗｈのものから１０年経過と同時に終了していきます。売電はそのまま継続できるのですが、単価は１０円以下と言われ、売電によるメリットはほとんどなくなります。つまり売電よりも購入単価の方が逆転して高くなってしまう形になるのです。左図をご覧ください。検証からＲＰＳ法やＦＩＴ法は売電に大きく頼っていたため、１１年目からの経済効果は大きく下がっていきます。

住宅用太陽光5kwの初年度と11年後
太陽光単独か蓄電池を設置した場合の比較表

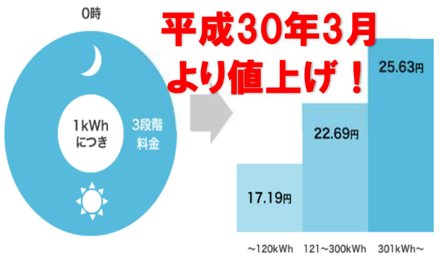
比較／項目	太陽光	太陽光＋蓄電池導入	RPS法 FIT法後	蓄電池導入
使用期間	1年～10年目	1年～15年目	11～25年目	11～25年目
売電単価	28円/kwh	28円/kwh	10円／kwh前後	10円／kwh前後
太陽電池効果	6,200kwh/年	6,200kwh/年	6,000kwh/年	6,000kwh/年
住宅供給費用効果	62,000円/年	120,000円/年	48,000円/年	118,000円/年
蓄電費用効果	0円/年		0円/年	
売電費用効果	110,000円/年	80,000円/年	36,000円/年	30,000円/年
総合費用	172,000円/年	200,000円/年	84,000円/年	148,000円/年
設備投資費用	約120万円	約220万円	約25万円	約120万円
補助金	0万円	35万円	0円	35万円
最終投資費用	120万円	185万円	約30万円	約85万円
使用期間経済効果	176万円	300万円	126万円	222万円
経済効果－設備投資	56万円	115万円	96万円	137万円
検証	新築・既設どちらでも、太陽光単体よりも蓄電池効果に軍配が上がる。蓄電池のからコントロールされた電気消費は大きなメリットを生むことでしょう。新築の場合は住宅ローンと合わせるともっと大きな効果があります。		蓄電池の方が大きな経済効果を生むことが分かります。太陽光だけは売電に偏り経済効果合が少なく、蓄電池は昼間の電気や夜間の電気を使う事で売電よりも大きな効果がある為です。赤枠はその大きな差であります。	

電力会社からの電力購入単価は、昼間約２５円夜間は２２円程になります比べると２〜３倍の差があることがわかります。更に３月には電気料金が引き上げられますが、その単価に昼間蓄電池に貯めた電力をつかうとどうなりますか？そうです！売電するよりも貯めた電気を使った方がおとくなのです。もう一つの経費削減をする事ができます。皆さんは　再生可能エネルギー促進賦課金」をご存知ですか？それは電気の使用量に応じて支払うもので年々単価は引き上げられています電気量を削減すればカットできますね

▼再エネ賦課金の推移

年度	再エネ賦課金単価	標準家庭の負担額※1
平成28年度 2016年4月1日～2017年3月31日	2.25円/kWh	675円/月
平成27年度 2015年4月1日～2016年3月31日	1.58円/kWh	474円/月
平成26年度 2014年4月1日～2015年3月31日	0.75円/kWh	225円/月
平成25年度 2013年4月1日～2014年3月31日	0.40円/kWh	120円/月
平成24年度 2012年4月1日～2013年3月31日	0.22円/kWh	66円/月

再エネ賦課金は再生可能エネルギーの売電を国民や企業から利用量に応じて徴収する制度であります。



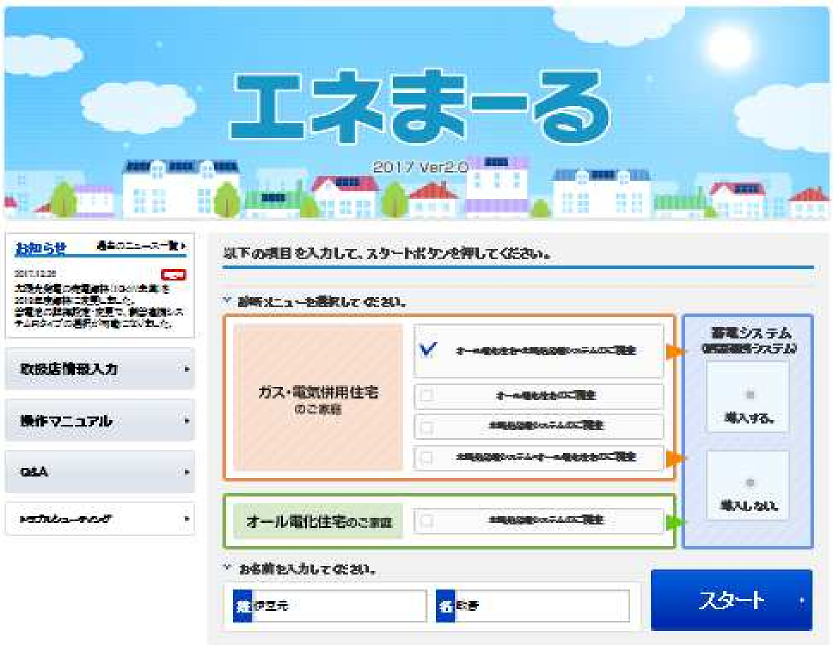
平成30年3月より値上げ！

電気料金 ＝ 基本料金 ＋ 電力量料金（燃料費調整額を含む） ＋ 再エネ賦課金

再エネ賦課金単価 × ご使用量 (KWh)

シミュレーション作成受付けます

太陽光＋蓄電池＋オール電化！住宅に合ったエネルギーシステムをわかりやすく資料にします。

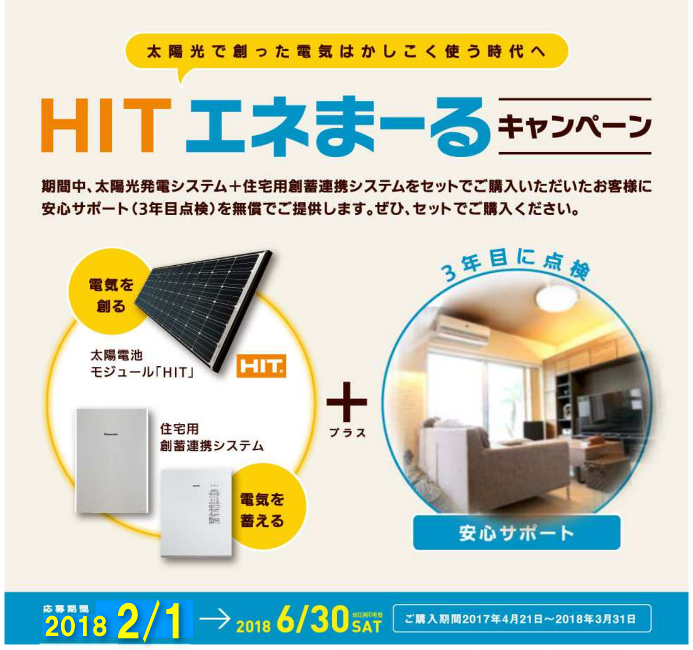


以下の項目を入力して、スタートボタンを押してください。

お名前を入力してください。

太陽光＋蓄電池のキャンペーン開始

平成３０年２月１日から６月３０日まで創蓄連携のキャンペーンを実施いたします。これから大きく広がる市場に皆さんご期待ください。


太陽光で創った電気はかしこく使う時代へ
HIT エネまーる キャンペーン
電気を創る
太陽電池モジュール「HIT」
HIT
住宅用創蓄連携システム
電気を蓄える
プラス
3年目に点検
安心サポート

期間中、太陽光発電システム＋住宅用創蓄連携システムをセットでご購入いただいたお客様に安心サポート（3年目点検）を無償でご提供します。ぜひ、セットでご購入ください。

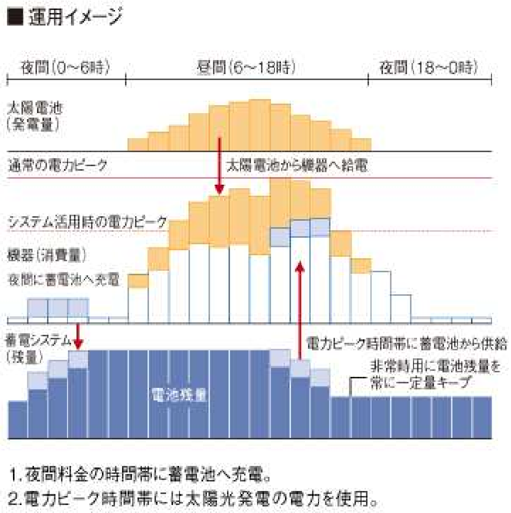
応募期間 2018 2/1 → 2018 6/30 SAT 当日消印有効　ご購入期間2017年4月21日～2018年3月31日

産業用に用いれば大きな効果

産業用でも同様に効果があります。しかし設備投資がかなり大きくなる為、採算をとる検討が必要です。大きなメリットは電力を低減する事から再エネ賦課金を削減できる事とピークカットによる基本料金の削減です。その他にも、停電や災害時に電力を供給することができ、その時のソフトの電源バックアップとしても活用できます。

平常時　電力をよく使う昼間の時間帯は、夜に蓄えた電力で賄います。(ピークシフト)

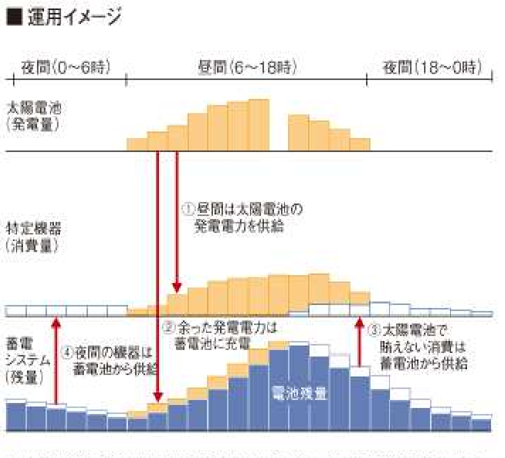
■運用イメージ



1.夜間料金の時間帯に蓄電池へ充電。
2.電力ピーク時間帯には太陽光発電の電力を使用。
3.さらに、蓄電池に充電された電力で、電力ピークを抑制。

非常時（停電時）　太陽電池と蓄電池で特定機器に安定して給電できます。

■運用イメージ



1.太陽光発電の電力で昼間の電力を供給、余った電力は蓄電池に充電。
2.太陽光発電の電力では賄えない時間帯の電力を、蓄電池から供給。

松下幸之助訓

どんなに悔いても過去は変わらない。
どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。
いま、現在に最善を尽くすことである。

家電部　伊豆元　政吾